

新年のごあいさつ

秩父市長 久喜 邦康

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、新春を穏やかに迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年は、2月に秩父市でも観測史上最深の98cmの降雪を記録した大雪被害、8月の広島市で起こった土砂災害、9月の御嶽山の噴火など、多くの自然災害が発生した年でもありました。あらためて、お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。

さて、民間研究機関の日本創成会議は、2040年までに、20歳から39歳までの女性が半減する自治体を「消滅可能性都市」と位置付け、発表しました。この「消滅可能性都市」には秩父市も含まれておりますが、全国的に少子化が進んでおり、また、大都市に若者が流出している状況の中、この発表は当然のこととして受け入れなければならぬものと思っております。秩父市といたしましては、人口の増加策は最重要課題の一つですが、ただでさえ日本全体の人口が減少している状況下で、秩父市と同様に人口が減少している他の地域から移住をしてもらうには、相当に魅力的な秩父市を築いていかなければなりません。人口変動だけ捉えても、人口流出を防ぐ方策があります。安心して暮らせる、一生涯継続したいまちづくりを進めながら、既存産業の支援や企業誘致、新たな産業の創出など働く場の確保に力を注いでまいります。

秩父市を預かり、また秩父広域市町村圏組合ならびに秩父定住自立圏に携わる者としての私の考えですが、地方には、山や川、鉱物といった自然からの宝物が豊富であり、戦後は地方が都会より潤っていた時代がありました。現況の解決への施策はたくさん考えられますが、シンプルに言えば、地方復活の鍵は、農業や林業など第1次産業への強力なテコ入れと、第2・第3次産業に対する鉄道や道路などのインフラの整備だと考えます。また、地方自治体の役割としては、長い間築かれてきた習俗性が稀薄化した今日、その土地に住んでいる人に対してどれだけの価値観を持たせられるかであり、それは「安心」、「安全」、「魅力」の言葉に集約されるものと考えます。わが秩父市においては、将来を見据えたバランスの取れた政治と、秩父圏域全体を考えた定住自立圏形成による舵取りを目指しております。

今年もまもなく大雪が心配される季節がやってきます。身を引き締め、大雪対策には万全を期してまいります。秩父市は地形上、土砂災害の危険性が高い地域でもあります。国、埼玉県とより一層連携を図り、大雪や大雨、台風に伴う土砂災害対策など防災体制を盤石なものにしてまいります。昨年の大雪の際に、市民の皆さまや遠くからお越しいただいた皆さまに参加していただいた除雪ボランティアは大変ありがたく、嬉しいことでした。皆さまのお力添えをいただきながら災害に強いまちづくりを進めてまいりますので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年も大きな事業が動き始めることとなります。本年も市政に変わらぬご理解、ご協力を賜りますとともに、皆さまにとつて輝かしい年となりますことを心からお祈りいたしまして、年頭に当たつてのごあいさついたします。

